

先日、急性フィラリア症のわんちゃんが来院しました

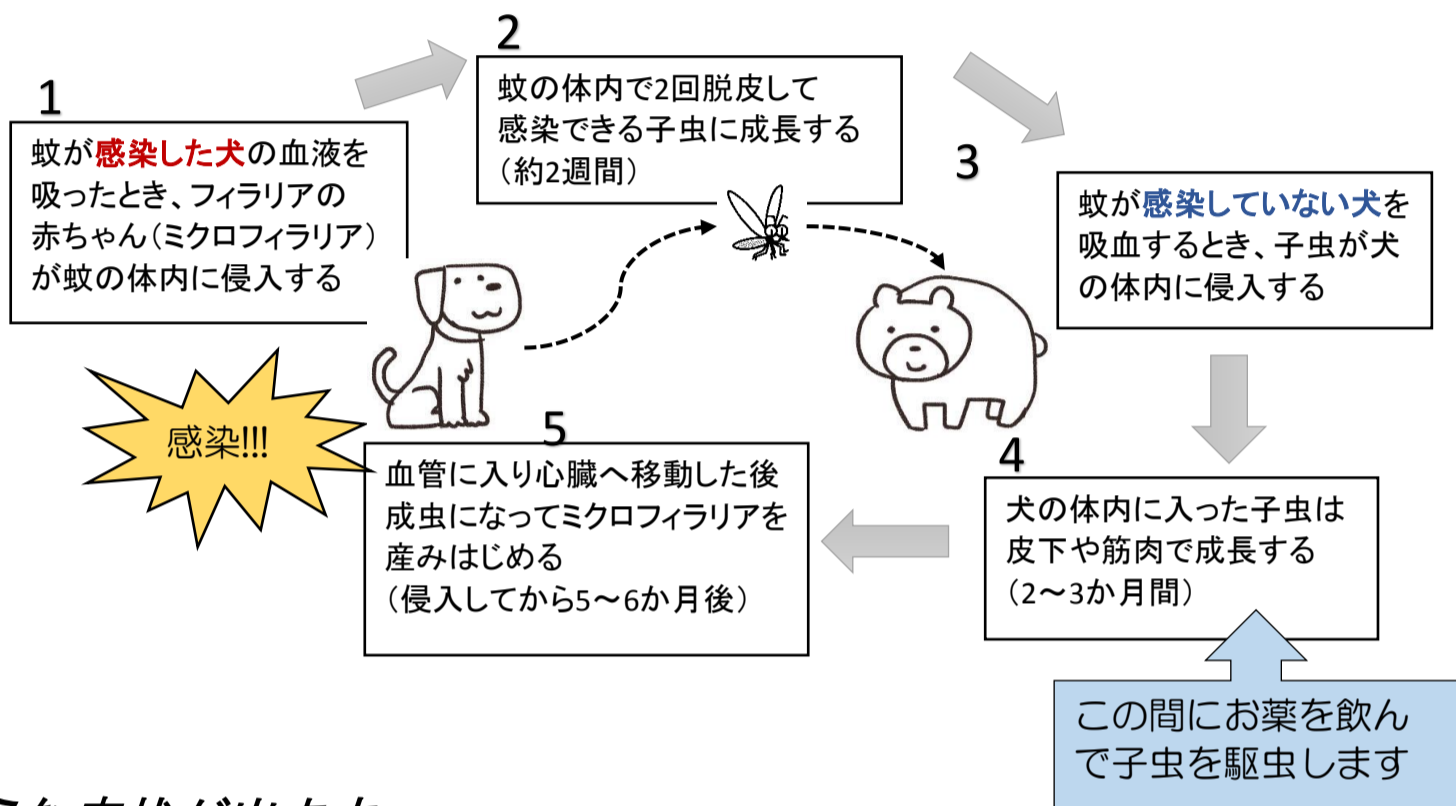
感染した犬がいるということは、フィラリアの子虫を持った蚊がそこら辺を飛んでいるということ
都市部では少なくなってきたと言われてはいますが、この地域ではまだまだ身近な病気と言えます
きちんと予防をすれば100%防げる病気なので、正しい知識をもって大切な家族を守りましょう

『フィラリア症』

ご存じの方も多いかと思いますが
フィラリアとは蚊によって媒介され
主に、わんちゃんの心臓に寄生する
ソーメン状の虫です



感染ルートはこのとおり



フィラリア症に感染するとこのような症状が出ます

【慢性症状】

- 咳が出る
- 運動をしたがらない
- 体重が減ってくる
- 腹水がたまる



【急性症状】

大静脈症候群 Venae Cavae Syndrome

心臓の中に寄生したフィラリアの成虫が、弁に引っかかってしまうと閉鎖不全を起し、スムーズに血液が送れなくなります。
また、血液が乱流し血球が破壊されるため、溶血性貧血を起したり、真っ赤な血尿が出たりします。
急に元気・食欲がなくなり、数日で亡くなってしまうこともある、とても怖い症状です。

予防しましょう！！

フィラリア症は月1回お薬を飲ませることで確実に予防できます

投薬期間は

6月1日～11月1日(全6回)

※去年のフィラリア発生時期の統計に基づき算出されています



お薬を飲ませ始める前に

去年の予防がきちんとできていたか調べるため、かんたんな検査が必要です

ほんの1、2滴採血ささせていただき、検査の結果はすぐにわかります
万が一、フィラリアに感染した状態で薬を飲ませてしまうと、ショック状態を引き起こす場合があります

検査はいつでもできますので、ご希望の方はお申し付けください
また、ご不明な点がございましたらお気軽にスタッフにご質問ください